

## 平成30年度第1回岐阜県図書館協議会議事要旨

- 1 開催日時 平成30年7月31日(火) 午後1時30分～午後3時20分
- 2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1  
岐阜県図書館 2階 特別会議室

### 3 会議日程

- ・館長挨拶
- ・委員長、副委員長選出
- ・委員長挨拶
- ・議 題

#### ○ 協議事項

- (1)平成29年度岐阜県図書館「図書館評価」について
- (2)第2次岐阜県図書館の運営方針について

- 4 委員の現在数 10名

- 5 出席委員等の人数及び氏名 8名

委員長	高橋 博美
副委員長	浦部 幹資
委員	加藤 真人
委員	金森 さちこ
委員	高木 誠
委員	長瀬 とも
委員	野々村 修一
委員	堀江 弘美

#### 事務局出席者

鍋島館長、藤田副館長、中山総務課長、矢島企画課長、酒向サービス課長、  
多田担当主幹兼企画振興係長、五十川管理調整係長、村田資料係長、  
近藤図書利用係長、和田調査相談係長、渡辺郷土・地図情報係主査

#### 県民文化局出席者

浅野文化伝承課長

- 6 議事の経過及び結果

[午後1時30分、副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った。]

(鍋島館長挨拶要旨)

本日は新しい任期での最初の協議会であり、新たに5名の方に委員へ御就任いただきました。よろしくお願い申し上げます。また、再任された5名の委員には、引き続き図書館の運営及び事業にご理解とご支援をいただくようお願いする。

本年6月3日の測量の日に、岐阜県図書館は国土地理院から功労者表彰を受けた。平成7年度から県内の小中学校等を対象として当館が毎年開催している「児童生徒地図作品展」において、「夏休みわくわく地図教室」の開催により作品展のすそ野拡大を図っていること、入賞作品の記録集を県内のすべての学校に配付していること、それらの成果としてここ11年連続で「大臣賞」を受賞していること等が評価されたものである。今回は平成16年度に続き2度目の受賞であり、同賞における2回の受賞は岐阜県図書館のみである。

さて、昨年度の利用状況は、閲覧室入室者数は5万4千5百人余で、前年比1万2千人余の増となった。一番落ち込んだ平成27年度と比べると1万8千人の増となっており、持ち直しの傾向にある。このなかで当館の主催行事への参加者は4万7千人で、前年の2万9千人から1万8千人ほど増え、取り組み強化の成果が表れてきている。

また、昨年度の協議会で指摘を受けた遠隔地サービスの向上については、インターネットでの貸出延長を昨年9月から、図書資料の自宅への配送サービスを今年1月から開始した。また、6月からはナクソスの音楽配信サービスを開始し、1ヶ月で約800件の利用があり、順調な滑り出しとなった。今年2月から開始したマイナンバーカードを貸出証として活用する実証事業については、引き続き県内の公立図書館に働きかけていきたい。

最後に、「情報共有・発信型図書館」としての使命を果たすため、「社会的課題解決の支援」、「郷土を知り学ぶ機会の創出」、「世界に開かれた交流の場の創出」の3本柱を中心に今年度も様々な取り組みを進めているので、委員の皆様にはお気づきの点があればご指導をお願いしたい。

[各委員が配席順に自己紹介]

[事務局から本日の出席者について、委員10名中、8名が出席しており、定足数に達している旨を報告した。]

[事務局から当協議会には委員長及び副委員長各1名を置き、委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が選出されるまで司会が進行を務めた。その後、委員の互選により高橋委員が委員長に、浦部委員が副委員長に選出された。]

(高橋委員長挨拶要旨)

高等学校も活字離れと言われ久しいが、読書や図書館の果たす役割は大きく、今年3

月に改訂された高等学校の学習指導要領でも学校図書館活動の充実や地域の図書館との連携等が明記されているので、その中核となる岐阜県図書館が一層充実していただけるとありがたいと思っている。

委員の皆様から意見をいただき、少しでもそのお役に立てればと思うので、ご協力をお願いしたい。

(委員長)

[委員長は、議題の協議事項である、(1) 平成29年度岐阜県図書館「図書館評価」について、事務局の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から、協議事項(1) 平成29年度岐阜県図書館「図書館評価」について説明]

(委員長)

[委員長は、協議事項(1) 平成29年度岐阜県図書館「図書館評価」について、委員の発言を求めた。]

(高木委員)

評価指標のうち、平成28年度の「レファレンス件数」が前年度と比較して大きく減少しているが要因は何か。

(酒向サービス課長)

平成27年に岐阜市にメディアコスモスが開館したが、市立図書館には子どもの絵本が充実しているため、おそらく子ども向けのレファレンスが岐阜市立図書館で利用された影響ではないかと考えている。

(加藤委員)

評価指標のうち、「図書館職員向け研修会の参加者満足度」が96.8%とあるが、何が不足しているか把握しているか。

また、地図資料のデジタル化について、実際に利用してみたが、古地図を拡大したときに文字が読めるまでの拡大ができずに残念であった。著作権の問題など規制があるのであれば、その状況を教えてほしい。

(矢島企画課長)

満足度について、アンケートをとる際に、「満足」、「どちらかという満足」、「どちらかという不満足」、「不満足」の4つの選択肢としているが、不満足の理由を聞いていないため何が不足か把握できていない。今後はアンケートの際に不満足の理由を聞くよ

うに改善していきたい。

(渡辺主査)

古地図のデジタル化について、委員がご覧になった古地図は、世界分布図センターがあった時代にデジタル化した古いものであったと思われる。しかし、現在の計画でデジタル化したものについては、高精細であり、拡大すれば文字までみえるようなレベルで実施している。今後、ホームページをより見やすいようにしていきたい。

(加藤委員)

かなりの手間をかけて作られているようなので、ホームページから入りやすい仕組みを作っていただくとともに、よりPRにも努めていただきたい。

(鍋島館長)

デジタルコンテンツに関して、現在は古地図のみであるが、郷土資料を含め優先順位をつけてデジタル化を進めていきたい。また、著作権上の整理がつくものについてはオープンデータ化し、ネット上でコピーできるようにするなど、再来年度のシステム更新の時期に合わせて全体の仕組みを考えていきたい。

(浦部委員)

評価指標のうち、平成29年度の「外部データベース利用数」が前年比174%と大幅に増加しているが、実際の利用状況はどのような傾向があるか。

次に、基本指標である「県内図書館への相互貸借貸出冊数」は、この3年間、ほぼ前年並みの数値が並んでいるが、それ以前と比べると減っているのではないか。過去の要覧を見ると約1万4千件の年もあったようである。相互貸借貸出冊数は、県立図書館にとって非常に重要な指標であるので増えるような努力をお願いしたい。

また、大変多くの事業をされ、素晴らしいと思うが、これだけ多くの事業をこなしていくのは大変なことだろうと思う。職員が過剰労働にならないよう管理をお願いしたい。

(矢島企画課長)

データベースで、昨年度、一番利用があったのが「岐阜新聞」、そのほか、「ジャパンナレッジ」、「日経テレコン21」、「中日新聞」等の利用が上位を占めている状況。残念ながらビジネス支援関連のデータベースについては、まだ十分周知できていないこともあり利用は伸びていない。

(酒向サービス課長)

相互貸借貸出冊数が増えないのは、資料費の予算が抑えられ、市町村立図書館の要求に十分に答える資料整備ができなかったことが、要因の一つではないかと考えている。

(鍋島館長)

職員の健康管理については、働き方改革の中で、時間外勤務の縮減等に全庁的に取り組んでおり、オーバーワークにならないよう配慮しながら事業を進めていきたい。

(浦部委員)

どうしたら相互貸借貸出件数が増えるか、もう少し分析して検討する必要があるのではないか。また、この評価指標の表についても、長いスパンで作成し、推移を示してもらえると理解しやすいのではないか。

(鍋島館長)

資料の作り方については、今後、検討させていただく。

[委員長は、一旦質疑等を打ち切り、協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針について、事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針について説明]

(委員長)

[委員長は、協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針について委員の発言を求めた。]

(加藤委員)

「電子書籍の導入」について、電子媒体こそ地理的条件を超越しているものであり、県図書館が主体的になって各市町村の図書館をとりまとめていければ効率的だと思うが、そういった方向性は検討されているか。

(鍋島館長)

現在、大垣市では郷土資料のみ、関市では一般文芸書を含め電子書籍が導入されている状況。各市町村図書館にはそれぞれ選書の方針等があり、県図書館が導入分野を含め全体を調整するのは難しい。そのため、まずは県図書館として県全体のニーズが高いものをどのように導入していくか検討を進めていきたいと考えている。

また、電子書籍が普及しない要因は、ベンダー(製造元)によっては蔵書とならず、利用権を取得しているだけということもあるのではないか。

(高木委員)

「書庫狭隘化に対応した保管スペースの増設」について、空きスペースが残り10万冊分というのは、どのくらい感覚なのか。また、その対応方法について、古い図書は廃棄する、あるいは新たな保管場所を確保するといったことが考えられるが、どのように考えているか。

(鍋島館長)

年間2万5千冊程度の増加を見込んでおり、現在のペースでいけば、平成33年度には満杯となることから、平成33年度に書庫の増設をする方向で考えている。具体的には閉架書庫に集密書架を導入することで収蔵能力を高めていきたい。併せて、1階閲覧室について、資料が探しやすい棚づくりを実施していきたい。

(堀江委員)

社会的課題解決の支援として、「LGBT'sセミナー」を開催していただき、ありがたく感じている。現在、学校に通う子どもたちの中で発達障がいの子の割合が高くなってきている。子どもたちどうしは学校教育により障がいに対する理解が進んでいるが、保護者世代の理解がない。PTAとして保護者に対して理解を求めよう取り組んでいるが、なかなか浸透しない状況。

障がいのある子が社会に出た時、社会の中に障がいに対する理解がなければ、就職先で心無い言葉に涙することにもなる。LGBTに限らず、ADHDや大人の発達障がいなど各種障がいに対して理解を深められるようなセミナーを実施していただけると、より社会に理解が進むのではないかと感じる。

また、「関係機関との連携促進」に関し、今後、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との連携など子どもたちが喜びそうな企画をしていただけると、保護者としてはうれしく思う。

(鍋島館長)

今後、がん教育と人権教育に力を入れたいと考えている。また、発達障がいについても理解を深めるためのセミナーを開催していきたい。

(金森委員)

「中核図書館としての機能強化」の中に「県教育委員会等との連携」とあるが、具体的に「学校図書館協議会との連携強化」の文言を入れていただき、学校図書館や学校図書館協議会との連携を強化することによって、現在、図書館で展示されている花子や杉原千畝に関する図書を学校の推薦図書に取り入れるなどの協力をしたり、LGBT等の課題解決に役立つ情報が学校に伝わるができる。

(鍋島館長)

学校との連携については、本日、学校支援課長が欠席のため、後日、委員の意見を県教育委員会に伝え、引き続き連携して進めていきたい。

(野々村委員)

「中核図書館としての機能強化」として様々な項目があげられているが、「岐阜県図書館としての取組み」と「岐阜県の中核図書館としての取組み」を区別して書いた方が分かりやすいのではないかと思います。つまり、いろいろなところとどう連携してどのような成果をあげるかが中核図書館の使命ではないかと思う。岐阜県図書館として単発で行うものと区別すれば分かりやすい。例えば、「世界に開かれた交流の場の創出」とあるが、これで何ができるのか、どういうことを期待するのかなどターゲットを明確にすれば、もっと分かりやすくなるし、どうやったらよいかという意見も出しやすいのではないかと。

(浦部委員)

「社会的課題解決の支援」で、障がい者やLGBT等に対し積極的に取り組まれるということで期待している。特に、発達障がい者への図書館サービスは非常に遅れているところなので、今後、どのように取り組まれるか興味深い。

また、「県内市町村図書館等の連携」について、単に県図書館の課題とせず、「県が先行実施した事業の市町村への普及促進」という形で、県内全域にこうしたサービスを広げていこうというスタンスに敬意を表したい。

(鍋島館長)

県内図書館職員の資質向上及び意識改革のための研修等の実施については、市町村を含め、全体としての底上げを図らないとサービス向上につながらないと認識しているので、伝えたい方に確実に伝わる方法を工夫していきたい。

(長瀬委員)

「県内市町村図書館等との連携」に関し、県図書館には、各図書館でどのような取り組みを行っているか、どのような成果があったかという情報をお持ちだと思うので、市町村図書館に情報を提供したり、各市町村図書館の担当職員どうしの情報交流の場を設けていただけるとありがたい。

(多田担当主幹)

市町村図書館の情報については、これまでも研修会の場合等でも提供しているが、今後も継続してやっていきたい。

(委員長)

[委員長は、協議事項に対する質疑意見を打ち切り、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[今後のスケジュールについて説明]

次回の協議会の開催は、平成31年2月下旬の開催予定。

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時20分に閉会宣言した。]